

会社の危機打開に向けて自社製品の開発に着手 「大切なモノ、瞬間をメッキして残す文化」の定着を目指す

株式会社ゴトー理研

本社所在地 浜松市東区原島長501-1
設立 昭和57年8月
資本金 300万円
従業員数 24人
<http://www.goto-rikenn.co.jp>



リーマン・ショックで 過去のビジネスモデルが崩壊

ゴトー理研は、地場産業である輸送用機器や楽器関連業界向けのメッキ処理が主力。しかし平成20年のリーマン・ショック以降は地域のビジネスモデルが崩壊した。同社も例外でなく仕事量が激減し、「自社製品の開発が不可欠」（後藤伸社長）との思いが強まった。

新規事業のヒントは友人の結婚式に出席した時の会話にあった。同席した米国人に「メッキをやっている」と話すと「僕の靴をメッキしてくれ」と熱心に頼まれた。予想外の依頼に驚いたが、話を聞くと米国には思い出の品をメッキ処理して残す文化があるという。

日本でも子どもが初めて歩いた時にはかせる“ファーストシューズ”を大切に取っておく人は少なくない。

しかし、そのままの状態では年月が経つと汚れたりカビが生えたりしてしまう。ペット用品も同様だ。家族の一員として過ごしてきたペットが他界した時、首輪やリードをメッキして残したいという試作依頼は以前から寄せられていた。

「大切なモノをメッキして残す文化を日本に定着させよう」（同）。目標は明確になった。



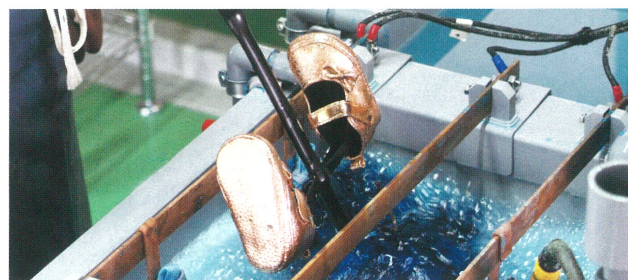
「記念の品にメッキする文化を定着させたい」と語る後藤社長

光きらめくジュエリーメッキへの挑戦

金属へのメッキでは豊富な実績がある。布にもメッキは可能だ。しかし靴のメッキが難しいのは、表面は布、底はゴム、装飾部分に化繊など、素材が複合的に使われているためだ。複合素材への一括メッキでは、構成素材全ての導電化が必要だが、従来方法では薬剤による各素材への影響がバラつき、うまくメッキできなかった。

ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金（ものづくり補助金）を利用した開発では、浜松工業技術支援センターにも相談した。さまざまな薬剤を試し、メッキ時間や乾燥時間に変化をつけるなど試行錯誤を繰り返した。ネット情報なども駆使し、ようやく複合素材にきれいにメッキできる薬剤を見つけ、それが技術的なブレイクスルーとなった。

さらに記念品として残すとなると風合いも重視される。現在は独特な風合いを持つ銅、金色に輝く華やかな真ちゅう、ノスタルジックな仕上がりとなるニッケルメッキの3種類を用意。そのきらめき感から「ジュエリーメッキ」と名付け、事業化した。



複合素材に適した薬剤の発見がブレイクスルーになった

製 品 紹 介



ファーストシューズを
メッキして半永久的に保存



メッキによりジュエリーのように光きらめく

最新のメッキ技術と職人技を融合

「中小企業にとっては、作るより売の方が何倍も難しい」と、後藤社長は吐露する。現在はネットでの取り扱いのほか、東京・浅草や銀座などの取扱店6店を通じ、注文を受けているが、認知度の向上には苦労している。「お店や展示会で現物やパンフレットを見た人には関心を持ってもらえるが、なかなか入り口が広がらない」(後藤社長)と現実には厳しい。

メッキを希望する人は取扱店などに置かれた専用ボックスに靴やペット用品を入れて送ると、ゴトー理研でメッキ加工し、約3週間から1カ月で完成品が届けられる。最新のメッキ加工技術と、職人が心を込めた手作業の融合によりジュエリーメッキが一つひとつ製作される。加工料金は1足1万8000円(消費税抜き)。月100足の加工を目指している。



1足1足、丁寧に仕上げる

東京五輪は千載一遇のチャンス

世界に一つだけの大切な成長の瞬間をメッキすることで半永久的に残せる。「祖父母から孫へのプレゼントとして、子どもや孫の結婚式を祝うサプライズとして、記念の品をメッキして贈る文化を日本にも定着させたい」(後藤社長)と夢は膨らむ。

後藤社長が「大きなチャンス」と期待するのが2020年に開催される東京五輪だ。世界中の人が注目し、外国人も多く訪れる国際的なスポーツの祭典で、選手たちのシューズを記念にメッキすれば注目度は俄然高まる。現在は靴なら15センチメートル程度の小さいサイズが対象だが、アスリートの大きいサイズにも対応できる技術的メドは立っている。

事業としての成功はもちろん目指すが、「それぞれの人生の大切な1場面を残したい」と後藤社長と同事業のやり甲斐を語る。

1足の靴には、百人百様の思いが宿る。「靴の柄を残したい」「名前や日付を刻めないか」。記念品への思い入れを伝えるお客の声に真摯に耳を傾け、技術に磨きをかける。



首輪など、ペット用品のメッキ依頼も多い